

感染症 ひとくち情報

デング熱に注意しましょう!



2019年10月17日

東京都健康安全研究センター

1. デング熱とは

デング熱とはデングウイルスの感染によって起こる急性の熱性感染症です。デングウイルスを保有する蚊（ヒトスジシマカ等）に刺されると体内でウイルスが増殖し感染し、まれではありますが、性的接触により感染したと推定される事例報告もあります。ウイルス感染後、3日から14日（多くは4日から7日）の潜伏期の後、発熱、頭痛（後眼窩痛）、筋肉・関節痛、全身倦怠感等の症状が出現します。まれに重症化することがありますが、発熱は通常2日から7日で解熱し、発熱前後の時期に発疹を伴うこともあります。

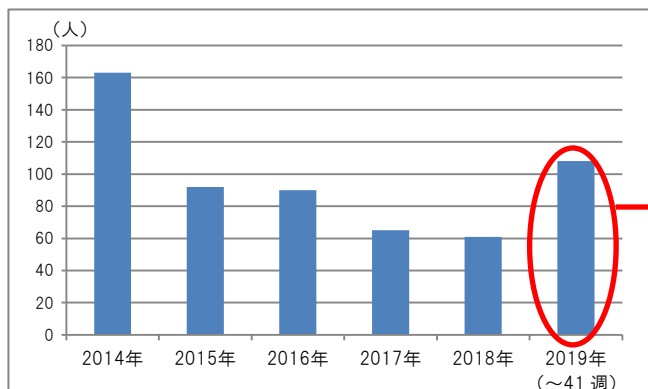


ヒトスジシマカ

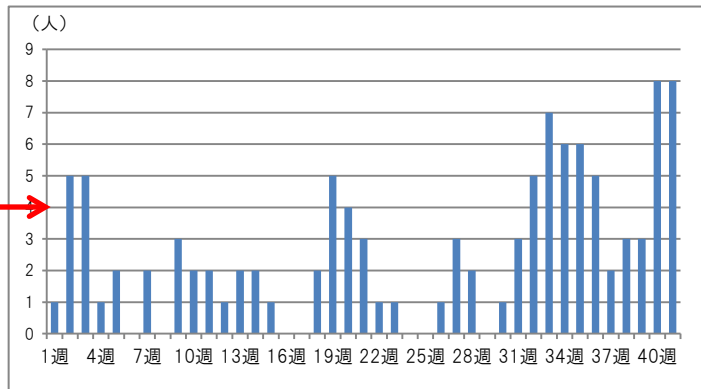
2. 発生状況

2019年、デング熱患者は41週（10/7から10/13）現在、108件の報告があり2018年の年間報告数（61件）を既に超えています。これは、例年に比べアジア各地でデング熱の患者発生が増加しているため、都内でも海外で感染し日本入国後に発症する輸入患者が増加しています。

2014年からのデング熱報告数の推移



2019年デング熱受理週別報告数



3. 予防について

緑の多い木陰やヤブなど、蚊の発生しやすい場所に立ち入る際には、長袖、長ズボンを着用し、肌を露出しないようにしましょう。足元も素足やサンダル履きは避け、必要に応じて虫よけ剤を使用します。

また、蚊を増やさないために、屋外の不要物、廃棄物は速やかに撤去し使用中の容器は雨の当たらない場所に置か、伏せておきましょう。また、ビニールシート等はくぼみができないように被せましょう。

◆雨ざらしの用具



◆水がたまったシート



◆弁当の殻などの廃棄物



写真出典：施設管理者向け蚊の発生防止対策～蚊媒介感染症防止のために～ より